

シュローダー・スナップショット マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し











2025年12月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ




株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
強気の見通しを維持しています。経済環境は堅調であるほか、好調な業績や拡張的な財政政策が支援材料になると考えます。米国株式のバリュエーションが割高であることから、世界（除く米国）株式の割安銘柄に分散投資を行っています。	弱気の見通しを維持しています。米国債券市場は米金融当局の積極的な利下げを織り込んでいますが、良好な経済環境、インフレ再燃の可能性を踏まえると時期尚早であると考えます。今後、米国金利は段階的に上昇する余地があるとみています。	中立の見通しを維持しています。スプレッドは縮小し、悪材料に対する耐性は限定的です。良好な経済環境とテクニカルは支援材料になると考えますが、人工知能（AI）関連の設備投資、M&Aに伴う起債の増加を懸念しています。	エネルギーに対する見通し改善に伴い、見通しを強気に引き上げました。供給能力に対する制限や政策動向から、エネルギー価格は上昇リスクがあると判断しました。金は引き続き魅力的な分散投資先であると考えます。




資産クラス	分類	見通し
株式	米国	強気の見通しを維持しています。財政政策や低い水準にある金利が株式市場を下支えするとみるほか、景気後退リスクは限定的と考えます。
	欧州	中立の見通しを維持しています。欧州株式市場のプレスは広く、特定銘柄への集中度は相対的に低い環境にあります。ただし、バリュエーションは割安ではなく、また、ユーロ高による輸出企業の利益への影響も注視しています。
	日本	高市政権の経済成長を促す政策は支援材料になると考えますが、直近の株価上昇を踏まえ、中立の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	中国経済の低インフレ率、強弱入り混じる景気指標を踏まえ、中国に対する見通しを中立に引き下げました。また、台湾や韓国についても、半導体需要やAI関連投資から恩恵を受けると考えますが、関税の影響や政策の不確実性からボラティリティ（変動性）が高まるリスクから中立の姿勢とします。
	新興国	見通しを中立に引き下げました。バリュエーションの相対魅力はあるものの、これまでの強気姿勢は中国テクノロジー銘柄への選好を反映したものでした。情報技術セクターへの集中リスクを管理し、より広範なエマージング市場を通じてバランスをとる方針とします。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し	
国債	米国		弱気の見通しを維持しています。短期ゾーンでは米金融当局の積極的な利下げ、長期ゾーンではインフレに対する楽観的な見通しが織り込まれていると考えます。
	欧州		弱気の見通しを維持しています。家計消費は堅調であるほか、積極的な財政政策、起債の増加といった要因から、金利は上昇余地があると考えます。
	新興国 (現地通貨建て)		中立の見通しを維持しています。新興国の経済環境は国によってまちまちであるほか、バリュエーション妙味も低い状態にあります。
	米国インフレ 連動債		中立の見通しを維持しています。2026年にインフレが再燃するリスクはありますが、バリュエーションは魅力的ではありません。
投資適格 社債	米国		中立の見通しを維持しています。テクニカル要因や堅調なファンダメンタルズが支援材料になると考えますが、バリュエーションは著しく割高で、AI関連の設備投資に伴い企業がレバレッジを再拡大する可能性を警戒します。
	欧州		中立の見通しを維持しています。欧州マクロ経済がクレジット市場にとってより支援的であることから、米国対比での選好姿勢を維持しています。
	新興国 (米ドル建て)		中立の見通しを維持しています。バリュエーションは割高であり、指数における企業固有リスクの高まりから、相対妙味は薄いと考えます。
ハイイールド 社債	米国		中立の見通しを維持しています。スプレッドは歴史的な水準に縮小しています。
	欧州		見通しを中立に引き下げました。魅力的なヘッジ後利回りや支援的な欧州経済環境を好感するものの、その他のリスク性資産へのエクスポージャー構築を優先する方針とします。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 見通しを強気に引き上げました。需要は底堅く、新規の在庫増加は低い水準にあり、リスクは価格上昇方向へ傾斜していると判断しました。
	金	 強気の姿勢を維持しています。各中央銀行の需要がみられ、中国個人投資家による需要も堅調です。米金融当局の利下げも追い風になると考えます。
	産業用金属	 強気の姿勢を維持しています。供給制約が価格上昇を下支えする可能性があります。来年にかけて、具体的な中国政府の政策が実施され、需給は逼迫した水準を維持すると考えます。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 弱気の見通しを維持しています。ドルに対する信認低下、米国の財政赤字拡大、安全資産需要がドルから金に移行していることなど、構造的なドル安要因が存在すると考えます。
	ユーロ	 強気の見通しを維持しています。欧州中央銀行は政策金利の据え置きを継続しており、欧米での今後の金融政策の方向性は支援材料になると考えます。また、ドイツの財政政策の具体化に伴い、ユーロ高につながる可能性もあると考えます。
	日本円	 中立の見通しを維持しています。財政・金融政策を考慮すると、短期的には米ドル円はレンジ相場が続くと考えます。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレーション・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

【本資料に関するご留意事項】

- 本資料は、情報提供を目的として、シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッド（以下、「作成者」といいます。）が作成した資料を、シュローダー・インベストメント・マネージメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が和訳および編集したものであり、いかなる有価証券の売買の申し込み、その他勧誘を目的とするものではありません。英語原文と本資料の内容に相違がある場合には、原文が優先します。
- 本レポートは、Schroders Investment Management Limitedが海外の機関投資家向けに作成した資料を、シュローダー・インベストメント・マネージメント株式会社が翻訳・編集したものです。本レポートは、シュローダーのグローバルベースの一般的な取り組み・考え方を紹介する目的で作成しており、日本の投資者を対象としない内容を含む場合があります。
- 本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。
- 本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、弊社はその内容の正確性あるいは完全性について、これを保証するものではありません。
- 本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。
- 本資料中に個別銘柄についての言及がある場合は例示を目的とするものであり、当該個別銘柄等の購入、売却などいかなる投資推奨を目的とするものではありません。また当該銘柄の株価の上昇または下落等を示唆するものでもありません。
- 本資料に記載された予測値は、様々な仮定を元にした統計モデルにより導出された結果です。予測値は将来の経済や市場の要因に関する高い不確実性により変動し、将来の投資成果に影響を与える可能性があります。これらの予測値は、本資料使用時点における情報提供を目的とするものです。今後、経済や市場の状況が変化するに伴い、予測値の前提となっている仮定が変わり、その結果予測値が大きく変動する場合があります。シュローダーは予測値、前提となる仮定、経済および市場状況の変化、予測モデルその他に関する変更や更新について情報提供を行う義務を有しません。
- 本資料中に含まれる第三者機関提供のデータは、データ提供者の同意なく複製、抽出、あるいは使用することが禁じられている場合があります。第三者機関提供データはいかなる保証も提供いたしません。第三者提供データに関して、本資料の作成者あるいは提供者はいかなる責任を負うものではありません。
- シュローダー/Schroders とは、シュローダー plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。
- 本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。